

全国の読者ととともに72年



昭和23年創刊

# 住宅新報

## 加速する<sup>⑨</sup> 物流不動産ビジネス

進化、拡大する物流不動産ビジネス

日経B Pからお声がかかり、急いで資料作りに励んでいたようです。

各セミナーでは、私が声高に叫んできた物流業界の危機や物流不動産ビジネス導入のメリットなど、フォローである早崎が堂々と代弁してくれる姿を来場者側で聴くことができました。建築業、マスメディア、産業と異なった業界の聴講者の多くが興味を持つ様子を感じとれました。

今回、早崎講演の統一テーマは「物流不動産ビジネスと人財」です。総勢400人弱の聴講者に対し、さまざまな側面から物流不動産ビジネスをアピールすることができました。

11月20日昼に開かれた「RiSOKOセミナー」は、大阪を拠点に倉庫等の建設を推進する三和建設とのコラボレーション企画。人財確保が困難なゼネコン（三和建設）と物流・不動産業（イソーコグループ）がそれぞれ実践する、人財確保のための考え方や手法を紹介しました。

講演した三和建設・森本尚孝社長は、新入社員の退職率が高いことから寮を新設、離職率低下やモチベーションアップにつながった事例を紹介しました。

早崎は620名の会員に成長した学生母集団を形成するイソーコドットコム傘下の（株）しるべが推進する活動、ジョブローテーション、マニユアルツールによる研修カリキュラムを通じた「物流不動産ユーザーティータップレーヤー」育成など、我々が目指す人材戦略を語りました。

同日・夜の部はベストセラー「メモの魔力」でおなじみ、前田裕二氏（SHO WROOM代表）の講演会に早崎が登壇しました。前田氏は辣腕若手実業家として知られ、ビジネス書も多数執筆されています。前田氏は若手社員と接触する際「多数参加の会議では頭脳のCPUは低下するが、二人きりで話す時は全力で向き合うことができる」と前田氏は話され、私自身も参考にできる点が多数ありました。

12月3日の日経B Pセミナーは、これまでのITなどの情報系中心のテーマから、物流・不動産業をターゲットとした初の試みとなりました。東京大学・西成活裕教授、日本ロジスティクスシステム協会（JILS総合研究所）・北條英ロジスティクス環境推進センター長のほか、レンタルパレット最大手の日本パレットレンタルと早崎による講演に200名弱の人が集まりました。

本セミナーで早崎は人財関連の紹介に続き、主な倉庫リノベーション事例、レンタルソーコ活用例を紹介、そして5G導入によるIoT活用の営業手法を紹介し、物流不動産ビジネスへの参画を提案し、多数の方の賛同を得ることができました。令和を迎えて物流不動産ビジネスはさらに加速していきます。

また12月3日に開催された日経B P主催の産業マター「経営課題解決シンポジウム」でデジタル変革による競争力、現場力向上、製造業・物流編」も、急速

製造業・物流編」も、急速



日経セミナー（壇上は早崎）